



TPP合意内容として発表された鶏卵の生産現場。すぐに影響はないが、将来的な打撃が懸念される

れるため、枠内の関税は撤廃されるが、低価格の豆類が大量に出回る可能性は低いとみられる。

木材は種類ごとに1～16年で関税撤廃される。既に1964年に自由化され、関税も徐々に引き下げられてお

農水省が追加発表した TPPの市場開放内容(十勝関係分)

品 目	関税などの合意内容
牛内臓(ハラミ)	現行12.8%を初年度6.4% 13年目に撤廃
牛タン	現行12.8%を初年度6.4% 11年目に撤廃
ハム・ベーコン	初年度に関税半減 11年目に撤廃
ソーセージ	現行10～20%を 6年目に撤廃
アイス・クリーム	現行21～29.8%を 6年で63～67%削減
鶏肉	現行8.5%、11.9%を 11年目に撤廃
小豆など雑豆	低関税輸入枠内の関税は撤廃 枠の量と枠外関税は維持
木 材	1～16年目に撤廃

り、市内の業者は「すでに木材は防壁のない平地。TPPより為替変動が気になる」とする。

管内農家は「すぐに影響はない」としつつも、長期的な影響を懸念する声も。市内で豚約600頭を飼う松井畜産の松井晃一社長(66)は「(豚肉に続いて加工品も関税が下がり)

大変なことになる。ここ1、2年は海外で豚の病気が流行した影響で国内相場は高いが、今後どうなるか」と心配する。養豚農家は既に集約が進んでおり、十勝管内は30戸ほど。松井社長は「TPPで若い人が後を継がず、国内の競争がさらに激しくなればさらに減ってしまうのでは」とみる。

農業ガイド1029号

「TPPって」…米国では関心薄？

アトランタ取材記 見詰め続けたい 十勝への影響

2015年10月10日

米ジョージア州アトランタで開かれた環太平洋連携協定(TPP)交渉の閣僚会合で、記者は9月29日～10月3日に十勝、道内関係者を取材するため現地入りした。現地の様子や現地で得た情報などを紹介する。(眞尾敦)

■急な閣僚会合 慌てて現地入り



交渉会場のホテル「ウェスティン・ピーチツリー・プラザ」

7月末に米ハワイ州で開かれた閣僚会合から、わずか2カ月。再び開かれることになった閣僚会合だが、直前まで開催が正式発表されなかった。

現地取材に行くかどうか、十勝毎日新聞編集局の6人で構成するTPP取材班では最後まで判断に迷った。

結局、正式に開催が発表されたのが5日前で、道内JA代表団の派遣も決まり、慌てて航空券や宿泊を手配。大筋合意の可能性がある以上、現地入りして取材する必要があると意見が一致した。

■かさむ費用 モーターに



会場近くで反対運動する米市民団体関係者(2日)

日本政府がTPPに掛けた出張旅費が9億円超にもなるというNPOの調査もあったが、十勝毎日新聞はハワイにも記者を派遣しており、かさむ出張費に頭を抱えた。アトランタへは同市に本社のあるデルタ航空が直行便を運航しているが、直前のため高額。読者からいただいた購読料を無駄遣いするわけにもいかず、記者は直行の半額程度の乗り継ぎ便を手配した。

現地で訪れた交渉会場のホテル「ウェスティン・ピー